

〈グリーンな栽培体系への転換サポート〉 取組みの概要

取組概要

山ノ内米研究会では、令和4年度に水稻栽培について、中干し期間の延長や密植苗、側条施肥移植などを行い、温室効果ガス（メタン排出）の削減や、省力化を図る実証を行った。



取組成果

中干期間の延長（7日間→15日間）及び秋耕（0回→1回）については、酸化還元電位の推移を調査した結果、メタンの排出削減に一定の効果があった。また、中干しにより、根の活力を高め、登熟期まで養分を吸収することができる。側条施肥移植については、肥料総量：55kg/10a→44kg/10aに施肥量を減らすことができた。また、作業も2回→1回に省力化が図れた。密植技術については、育苗苗箱数を削減（使用苗箱数：19枚/10a→13枚/10a）することで、育苗に係る作業時間の削減が図れた。

成果の普及

令和5年度の経営所得安定対策や水稻生産実施計画書の提出に合わせ栽培マニュアルを配布した。また、山ノ内町ホームページに掲載しながら、グリーンな栽培体系への取り組みを進めることで地域の農業者への定着を図る。

長野県
山ノ内町